

地震に

自信

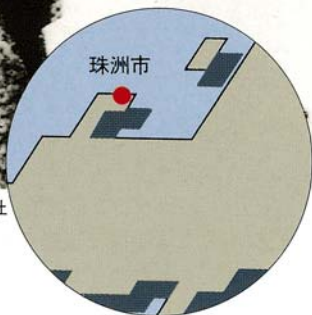
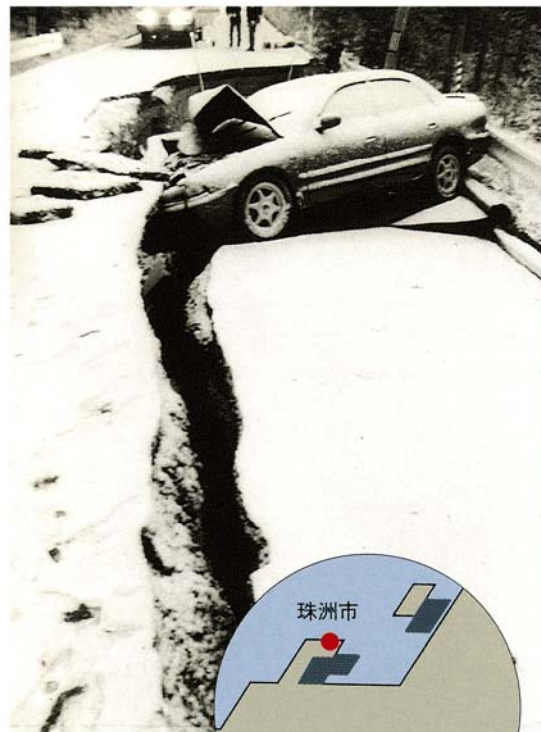
能登半島沖 大地震



ない激震にみまわれ、家の中を歩けないほどでした。総鉄骨造りの私の家でも、四方八方からバリバリという金属音が聞こえ、冷蔵庫やコピー機が倒れたり、移動したりと、散々な状況でした。当方の給水管路は本管が铸铁管、埋設管は硬質塩化ビニール管、分水取り出し、立上がり管にポリエチレン管、ライニング鋼管を使用しています。ライフラインの破裂により多数の方が断水、ろうすい被害に合う中で、特に継手の接合部から管がすっぽり抜ける事故が続出しました。さらに、給湯管（屋内配管）も大きい損傷を被ったわけですが、当市の給湯配管材のうち、20%程度使用されている銅（被覆銅管・白パイプ）については、なんと1件の事故例もありませんでした。改めて耐震性に優れている銅管の特性に驚いています。20年前に屋内配管は全部銅管（被覆銅管）で施工した私の家もなんら以前と変わることがありませんでした。今後、私どもは施主さんに銅管を薦めたいと思っておりますので、材料コスト、施工技術レベルのクリアなどに強く関心を持っています。」

（珠洲市 加藤設備 加藤社長談）

昨年1月の北海道・釧路沖地震に続き、翌月2月7日に石川県輪島周辺に同規模の大地震が発生。建物倒壊、路面陥没、水道管路破裂など、とくに被害が石川県珠洲市内に集中した。今回は、その正院町で管工事を営んでいる加藤設備の加藤社長にお話を伺いました。「午後10時25分頃、かつて経験の



写真提供/朝日新聞社